

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101739		
法人名	医療法人 湖青会		
事業所名	高齢者グループホーム志賀の里		
所在地	滋賀県大津市和邇高城270番2		
自己評価作成日	令和2年9月17日	評価結果市町村受理日	令和2年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 株式会社平和堂和邇店2階		
訪問調査日	令和2年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『この町で もっと 自分らしく』を事業所の理念としています。
 毎日を共に過ごす馴染みの関係の中でより個別に関わらせていただくことで、安心し、昨日よりも今日、今日よりも明日…と、もっと自分の出来る力を使いながら自分らしく暮らしていただけるように、職員はご利用者様と誠実に向き合っていきます。
 医療法人の運営で、隣接する診療所や訪問看護ステーション・小規模多機能型の事業所・介護老人保健施設等と連携をとりながら、途切れのない支援が出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一フロアに、喜多(きた)美波(みなみ)と名称した2ユニットの事業所から夕陽や虹が見え「あれが見えると幸せになれるんよ」と利用者の何気ない会話の中に職員との穏やかな暮らしが伺える。コロナ禍でイベントや行事が制約されている中、事業所での日常の家事手伝い、壁飾りや大作の壁画づくりなど利用者が楽しみや役割をもって生活ができるよう工夫し支援している。医療法人の運営で隣接に小規模多機能型居宅介護サービス・介護老人保健施設ショートステイなどが在る。管理者・職員は認知症ケアに経験豊富な職員が多く「身体拘束ゼロ」や「看取りケア」に取組み利用者・家族から安心と信頼を得ている。外国人技能実習生を受け入れ利用者・職員との中に溶け込んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はホールに掲示・勤務表に記載し、職員の目に付くようにする事で自身の支援が理念に沿ったものであるか振り返れるようにしている。	「この町でもっと自分らしく」を事業所理念とし、ユニットの目に付きやすい所に掲げ、職員は折に触れて自分を見つめ直し、理念に立ち戻りながら、支援に取り組むことで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事などへの日常的な参加は出来ていないのが現状。今年はコロナの影響もあり、地域住民の方の中からのボランティアも受け入れていない。	保育園の七夕や運動会に参加していたが、コロナ禍で今は交流がない。その中でも小規模多機能型居宅介護サービス利用の紹介や認知症の在宅療養についてなど、地域包括支援センターと連携し、地域住民の相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られたり電話を下さったりした場合にはそれに対応し、別のサービスを紹介させていただいたケースもある。 地域に向けての発信は、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方が参加して下さり、事業所からの報告に対してご意見をいただいている。ご意見を参考に事故防止などに取り組んでいる。 C	民生委員や家族で開催し、会議では運営状況、利用者の様子や事故・ヒヤリハット報告、意見交換を行い、克明な議事録を作成し、職員にはファイルにし共有している。転倒事故防止に足元センサー設置の提案を実現している。書面開催からは意見交換が出来ていない。	議事録は家族にも配布して欲しい。事前に意見・質問表を送付し返事がもらえる工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員とは、管理者を窓口として報告・相談をしている。 多職種連携会議等にも参加し、関係づくりに取り組んでいる。	市介護保険課とは事故報告など相談・助言を得ている。2か月毎の和邇地域包括支援センター管内の多職種連携会議(OK会合)に参加し、医師、ケアマネージャーなど情報交換の場となっており関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『「身体拘束ゼロ」への取り組み指針』を作成し、契約時にご家族にご説明している。 センサーやチャイムの使用により、昼間は玄関を施錠せずにご利用様の安全が守れるようにしている。	「身体拘束ゼロ」の取組を行っている。玄関は日中施錠せず、外部不審者対策としてチャイムやセンサーを導入し家族には口頭で説明している。大津市早期発見ダイヤルに登録し、徘徊時は職員と連携し対応できる体制になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講し、他の職員に伝達するよう取り組んでいる。 また、ケース会議にて、個別に身体拘束に頼らずに事故を防ぐ方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度をご利用の方がいらっしゃる、関係機関との連絡等を行っている。ご家族からの成年後見制度の申請のお手伝いをさせていただいたケースもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者からご家族にご説明し、ご納得いただいてから契約している。ご利用開始後に気付かれた事に関しては、いつでも訊いていただけるようにお声かけしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設置し、行政窓口とともに重要事項説明書に明記している。 各ユニットの玄関には『ご意見箱』を設置しているが、面会制限中のため活用は出来ない。	家族とはガラス越しの面会となっている。廊下を元気に歩いて来る姿を見て家族は安堵し、中には携帯電話で話をしている利用者もいる。敷地内草刈りの要望がありムカデの害虫駆除と防草シートを業者に依頼し実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議など発言の機会を設けているが、参加者が限られてしまっている。 事業所内で出た意見は、管理者から法人に報告している。	年1回法人全体の面談がある。職員の提案で夏・冬の早出勤体制を変更しシフト体制が順調になった事例がある。ほとんどの職員が資格取得をしており、次へのステップアップ体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や、個人の勤務状況が把握されているかどうかは分からない。事業所の職員から出た声は、法人の全体会議や部門会議にて報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所毎に管理者に任されている部分が多い。法人内外の研修について職員に案内しているが、勤務の都合がつかない事もある。受講希望者も多くはない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に加入しているものの、活動がないのが現状。多職種連携会議の案内は職員全員向けに行っているが、参加者は限られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接やサービス担当者会議にてご本人から、またはご家族や関係者からご本人の思いを伺い、ご本人にとっての安心がどのようなものかを考えることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やご要望についてお聞きしながら、ご本人にとっての最善の状態を共に考えていただけるようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めてご相談をお受けした時には、必要に応じて他のサービスについてのご案内もするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事作業の場面や、エンドウ豆の皮むき等の季節の作業の場面などでは特に、ご利用者様を経験豊富な先輩として共に取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の支援に困難な部分があった時には、共に考えていただけるようお願いしている。現状は面会制限中だが、面会や外出・外泊の機会を持っていただくようご案内している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元々のご近所の方が面会に来られる、という方もあったが、面会制限させていただいている。職員が付き添う事が困難で、個別の馴染みの場所への外出も難しいのが現状。	以前は近隣住民の送迎で、サロンや行きつけの美容院へと楽しみにしていたがコロナ禍で制限されている。訪問美容や知人からの電話を取り次ぎ支援に努めている。家族との外出は支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士と一緒に過ごしやすいように席を配慮したり、職員が間に入って会話をとりもったりするようにしている。また、あえて職員が入らないで過ごしていただく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も事業所を訪ねて来て下さったご家族がおられた。こちらからは、連絡事項があった時のみである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のご本人の様子を記録し、ご意向の把握に努めている。また、ご本人から伺うのが難しい場合は、ご家族にもこれまでの生活についてお聞きし、ご本人のご本人らしい暮らしの検討に努めている。	入浴時や朝、晩の着替え支援でマンツーマンで対応時に聴き取り記録し、ケース会議で共有している。困難な場合は家族から情報を得たり、表情やしぐさから汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とのお話やご家族・他事業所から情報を得、これまでの暮らしやサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子を個別に記録している。リハ職の訪問も受け、共に状態把握する事・機能向上の可能性を探る事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当者がモニタリングを行い、それをもとにケース会議を行っている。主治医や看護師、他の法人内専門職にも必要に応じて意見やアドバイスを求めている。 ご本人の会議参加は、ないのが現状。	理学療法士・作業療法士(リハビリテーション)の意見も採り入れ、3か月毎に介護計画を更新し家族の承認印得ている。面会の制約があるため、郵送での確認が多く、利用者の写真とコメントを付け同封している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングのもととするものであるため、情報共有のためにも細かく記録するようにしたいが、時間に追われて書ききれない現状である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科の診療を受けていただけるようにご案内したり、出張散髪を利用していただいたりしている。法人内の他の事業所との連携の中で、柔軟に対応していけるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに出かける、等の取り組みをしているが、十分とは言えない。 現在は感染防止が先に立ち、外部との交流が難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の診療所の医師が訪問診療を行っている。また、他の医療機関にかかられる時には、書面や口頭にて必要な情報提供に努めている。	契約時に説明し利用者全員が運営法人医院を主治医にしている。隣接して診療所や契約訪問看護ステーションがあり、家族は安心感を得ている。認知症専門医や歯科などは家族が対応し、出血などのケースでは写真付き文書で情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との24時間相談体制がある。管理者を窓口として訪問看護師らと連絡をとり、必要な情報が必要なタイミングで共有できる体制作りを進めているところである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変時に医療機関に対して提供するものとして、普段から服薬情報などをまとめた物を用意している。 多職種連携会議には参加し、顔みしりになっておけるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは、入居の段階で事業所で出来ることをご説明し、ご意向を伺っている。ご意向や、ご家庭の事情などにお変わりがあればお申し付けいただけるようお願いしている。医師や看護師からご家族への説明の機会も持つようにしている。	入居時に、終末期対応・急変時の治療・看取り介護についての説明をし、意思確認書で家族の同意確認を得ている。直近では9月に看取りを行っている。看取り確認シート「亡くなった方について」を看取り経験職員が詳細に記録し、活用している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は出来ていない。個別のカンファレンスにて起こりうる事故や急変について話し合い、必要時は医師・看護師にアドバイスを求めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害などの自然災害を想定した訓練は、していない。地域の女性消防団の方には運営推進会議のメンバーになっていたが、顔なじみの関係づくりに努めている。	地震災害対応マニュアルを作成し、3月に昼夜を想定した避難訓練を実施しているが地域住民の参加が得られていない。太陽光発電と蓄電池を設置し、備蓄の水、食料を保管している。今年度の避難訓練が未実施である。	今年度の避難訓練を近々に行い運営推進会議参加の地域女性消防団に協力を得、地域住民が参加できるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレのお声かけなど羞恥心に配慮が必要な場面で、十分に聞こえてらっしゃる方に対しても大きな声で行っていることがあり、スタッフ間で注意し合っている。	入居時に個人情報保護の指針を利用者・家族に説明している。年1回法人で権利擁護の研修を全員参加で開催している。入浴・排泄時など羞恥心への気配りやプライバシーに配慮した声かけに職員間で心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方にとっての分かり易い声かけを検討し、実践するように努めている。 言葉のかけ方や場所、誰が声かけするのかななどにも配慮するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共用のリビングで過ごしたり居室で過ごしたりしておられる。居室から共用スペースへお誘いする時には、レクのお誘いや家事作業の依頼など、その方が快く出て来られる様な声かけを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お手伝いしながら好みの服を着ていただけるようにしている。散髪の際の髪の長さの注文は、ご自分で注文できない方については以前からの髪型を参考に注文している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備については、出来ていないことが多い。片付けについてはテーブル拭きや茶碗拭きなど、職員と一緒に作業していただいている。	厨房で専門業者が調理し大皿で届けられ、ユニットで取り分けている。利用者が米ときやえんどう豆の皮むきを手伝い豆ごはんにし季節を味わっている。お寿司やうな重のテイクアウトで喜ばれている。検食は隣接ケアセンターが担当し、職員は食事介助後に持参の弁当を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立が考えられ、一人一人に合わせて刻み食やペースト食を提供している。水分については、お茶やコーヒー、スポーツドリンクなどの種類を用意し、十分に摂取できるよう考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや見守り、介助など、お一人お一人に合わせた形で毎食後の口腔ケアを実施している。 また、毎月歯科医師から口腔機能向上のためのアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンの把握に努めている。リハビリパンツやパッド等はその方に合ったものを使っている。可能な限りトイレでの排泄の継続に努めている。	個々に声掛けしトイレへ誘導している。パットがずれたり折れたりし、介護用品の種類を変える事で改善している。夜間はトイレへ行きやすいように明るくし、便所の表示を腰の曲がった利用者に合わせて高さを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動などの生活面を見直して、自然な排便を促すようにしている。その上で医師や訪問看護師と連携しながら服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴して頂けるようにしている。入浴中の方も他の方も安全に過ごしていただけるように、と考えると時間帯等お一人お一人のご希望に添うのが難しいのが現状。	午前中の中入浴を基本にしている。『体重測定するから』『先生から塗薬預かっているから』と浴室への誘導に工夫し対応している。入浴剤を変えたり、人形と一緒に入り楽しんでいる利用者もいる。重度利用者はリフト浴で支援している。	週3回の入浴が実施できるよう工夫して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分な睡眠・休息がとっていただけるように、昼間の活動状況なども考えている。どうしても眠れないご様子の時はホールで職員とともに過ごしていただく等して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に医療情報をまとめたものに薬の情報も載せている。服薬していただいたらその都度記録に記入し、服薬前後に変化が見られれば、それも記録することで情報を共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やダンスなどの余暇活動的な事がお好きな方があれば、家事作業的な事がお好きな方もある。お好みの活動を楽しんでいただけるよう、様々な活動が提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日のご希望に合わせることは難しい。 花見などの季節ごとの外出も、今年度で言えば感染対策ということで控えた。	コロナ禍で外出に制限があり、壁画レクリエーションやてるてる坊主作成、キャップパズルなど細かい作業やゲームなど、個々の好みに合わせた支援をしている。近辺の散歩で気分転換し、車いす利用者には玄関前のコスモスを見ながら外気に触れる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、事務所で預かりし、出納帳をつけて管理している。ご家族の了解のもと、ご自分で少額の現金をお持ちの方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話については、ご本人の様子に合わせて使っていただいている。また、携帯電話をお持ちの方もいる。手紙については、ご家族から届くものをご本人にお渡しし、読んでおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節が感じられるような貼り絵などを飾ったりしている。音の大きさや光の強さ、温度などはご利用者様にも聞きしながら調整している。	居間には家族や職員が持ち寄った花を生け、壁飾りやカレンダーで季節が感じられる。音楽が流れ利用者はソファや和室で寛ぎながら洗濯物をたたんだり談笑し、それぞれが安らげる居場所となっている。換気をし掃除にモップかけを手伝う利用者もいる。トイレ・浴室も清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時の席などは、気の合う方同士で座れるように工夫している。また、廊下にも椅子やソファを用意し、大勢の中から離れて休む事が出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などは持ち込んでいただけるようお願いしている。また、ご家族の面会時などに使われる様に応接セットなどを設置しておられる方もいる。	居室はフローリング張り畳敷きがあり、入り口に大きな字の表札を掛け、洗面台、ベッド、空調を備え、押し入れに小さい筆筒と突っ張り棒に服を掛け、使い勝手の良い居室に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。トイレの入り口には表示板、風呂の入口には暖簾など目印になる様なものを設置し、そこが何処であるのか分かるように工夫している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	10月10日の時点で、今年度の避難訓練ができていない。 地域防災における事業所の位置付けについての把握ができていない。	年に2回の避難訓練を行う。	・11月と3月に避難訓練を行い、うち1回は夜間を想定したものとする。 ・運営推進会議を通して、地域防災の中での事業所の位置付け・連携体制を確認する。	5ヶ月
2	4	コロナ禍で運営推進会議が文書交付のみとなっている。意見交換できるような工夫が必要。	感染対策の上で意見交換できるような工夫に取り組む。	文書送付時に質問票と返信用封筒を同封する。 その際の質問票はチェック方式と自由筆記方式とし、記入の負担を少なくできるように工夫する。	5ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。